

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	電気製作講座		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	レコーディングコース、PA&レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経歴:16年 楽器レンタル会社に所属の後にフリーランスとして15年ほど活動。担当アーティストの楽器・機材のケア、またイベントなどでの現地楽器、リハーサル時などではPAまわりも担当。 楽器の他に舞台監督としてアーティスト周年イベントなどでも活動。				
授業概要					
電気について基礎から学ぶ。 PAやレコーディングの現場で使用されている各ケーブルの製作方法を学ぶ。					
到達目標					
電気についての基礎知識の修得、半田ごての技術習得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	工具説明 ハンダの必要性の説明 ハンダの溶かし方、当て方の基本練習
【前期】 6～10回目	リード線をラグ板に接合してハンダ付け テスターの使い方について ケーブルの構造説明
【前期】 11～15回目	バランス・アンバランスについて アンバランスケーブルの線材加工練習 アンバランスケーブル予備ハンダ練習
【前期】 16～20回目	アンバランスケーブル接合練習 TSフォンの製作
【後期】 1～4回目	バランスケーブルの線材加工練習 バランスケーブルの予備ハンダ練習 バランスケーブルの接合練習
【後期】 5～8回目	XLRケーブル(オス側)の製作 XLRケーブル(メス側)の製作
【後期】 9～12回目	TRSフォーンケーブルの製作 RCAケーブルの製作
【後期】 13～16回目	スピーカーケーブルの構造 スピーカーケーブルの製作(スピコン)
【後期】 17～20回目	スピーカーケーブルの製作(TSフォン) AM/FMラジオ製作
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	電気の基礎やケーブルの構造を実際に自分で製作しながら学んで行きましょう。同時に現場で求められる半田ごての技術習得を目指します。
使用教科書	オリジナルテキストを随時配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	業界分野別講座	授業形態 / 必・選	講義	必修	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	レコーディングコース、PA&レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経歴:26年 レコーディングスタジオで7年間アシスタントとして多くのことを学び、その後レコーディングエンジニアだけではなく、5000人規模のライブ録音や50人規模のライブPAなど音を操る場で幅広く活動。				
授業概要					
各々の専門分野の基礎を学ぶ。					
到達目標					
レコーディングエンジニアとして必要なこと、求められることの理解。 コミュニケーション能力の向上。					

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	就職活動について
【前期】 3～8回目	レコード会社について プロダクションについて
【前期】 9～13回目	WEB制作について
【前期】 14～20回目	ローディーについて ギターの構造・メンテナンスについて ベースの構造・メンテナンスについて
【後期】 1～4回目	管楽器の構造・メンテナンスについて
【後期】 5～8回目	ドラムについて パーカッションについて
【後期】 9～12回目	作曲/アレンジについて
【後期】 13～16回目	ピアノ調律について
【後期】 17～20回目	ヴォーカルについて プラグインについて
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	それぞれの授業にプロフェッショナルな方々をお呼びしての授業です。エンジニアの視点から必要な知識を楽しみながら学びましょう。
使用教科書	オリジナルテキストを随時配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	デジタル機材講座		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	レコーディングコース、PA&レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経歴:26年 レコーディングスタジオで7年間アシスタントとして多くのことを学び、その後レコーディングエンジニアだけではなく、5000人規模のライブ録音や50人規模のライブPAなど音を操る場で幅広く活動。				
授業概要					
パソコンの内部構造の知識を中心に、オペレートに必要な音響知識を学ぶ。					
到達目標					
パソコンの内部構造の理解。 音響知識の修得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	ノートまたはipadのまとめ方 コンプレッサーの各セクションの説明と使い方の講義 ゲートの各セクションの説明と使い方の講義
【前期】 6～10回目	イコライザーの使い方、周波数ポイントについて タイムコード、ワードクロックのシステムについて マニピュレーターの仕事について
【前期】 11～15回目	スタジオにおけるHDDの階層について PCのCPU/Memoryについて DAWにおける、HardWareBufferSizeについて
【前期】 16～20回目	DAWにおける、SamplingRateについて HDDのオーディオデータ容量の計算 MP3の圧縮技術と音質の違いの聴き比べ
【後期】 1～4回目	DAWの購入における選び方について(各メーカーの特徴など、価格帯など) 音響用語について 舞台用語について
【後期】 5～8回目	メジャーアーティストによるボーカル録音(TV番組にて) ライブレコーディングについて MADIシステムについて(DANTE方式についても)
【後期】 9～12回目	収録レベルについて MASTERINGについてとやり方 ラウドネスメーターについて
【後期】 13～16回目	サラウンド方式について マイクキングにおけるステレオ方式について グルーヴについて(YMOの素材を使って)
【後期】 17～20回目	音効、効果音について(DVD:ラヂヲの時間) 「いい音で聴くには」をテーマにオーディオ機器の講義 歴代のオリコンチャートについて(音の作り方とジャンルの遍歴について)
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	デジタルについて一から学びなおし、デジタル機材について理解を深めていきましょう。
使用教科書	オリジナルテキストを随時配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	Pro Tools講座Ⅱ		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	レコーディングコース、PA&レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経歴:26年 レコーディングスタジオで7年間アシスタントとして多くのことを学び、その後レコーディングエンジニアだけではなく、5000人規模のライブ録音や50人規模のライブPAなど音を操る場で幅広く活動。				
授業概要					
レコーディングスタジオでのProToolsの操作方法等についての学習。					
到達目標					
ProToolsにおける編集操作、バランスの取り方、プラグインの使い方などの習得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	1年次に修得した知識の復習 オーディオインターフェイスについて セッション、ファイル管理について
【前期】 6～10回目	編集ツールの使用方法 ミックスツールの使用方法 クリップゲインの操作方法
【前期】 11～15回目	テンポチェンジ、拍子チェンジの設定 エラスティックオーディオの設定 オーディオ録音の設定
【前期】 16～20回目	イコライザーの説明 コンプレッサーの説明 モジュレーションの説明
【後期】 1～4回目	歪み系の説明 ピッチの修正 マキシマイザーの説明
【後期】 5～8回目	オートメーションの説明 オートメーションのボリューム機能 オートメーションのプラグイン機能
【後期】 9～12回目	ミックスバランスについて バウンス設定について マスタリングについて、プラグインのメーカー紹介
【後期】 13～16回目	音圧のかけ方について 音質補正について ライブミックスについて、映像シンクとバランスのやり方
【後期】 17～20回目	バランスの取り方、マルチチャンネルのバランス マスターレベルについて
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	Pro Toolsを実践で使えるようになるための授業です。アシスタントエンジニアに必要なPro Toolsの技術習得を目指しましょう。
使用教科書	オリジナルテキストを随時配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ポストプロダクション講座	授業形態 / 必・選	講義	必修	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	レコーディングコース、PA&レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経歴:21年 レコーディングスタジオからキャリアをスタートさせ、現在は主に民放・BSを中心に旅・バラエティ・音楽番組・各種CMにおいてMA及び選曲・音響効果を担当している。				
授業概要					
映像編集・MA作業について解説し、映像作品が出来上がるまでの一連の流れを学ぶ。					
到達目標					
ポストプロダクションに対する理解を深め、就職の幅を広げる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	映像制作の流れ 映像制作に携わる人々(職種)紹介 テレビ産業の成り立ち
【前期】 6～10回目	プロデューサーとディレクターの仕事内容 テレビ局について(ネットワーク・独立U局・系列局) カメラの高さとアングルについて
【前期】 11～15回目	照明機材紹介～ライトポジション MAの作業の流れ 納品の系態・ルール
【前期】 16～20回目	リニア編集とノンリニア編集 キャプチャーカード・ボックスとは？
【後期】 1～4回目	ビデオ・フォーマット(SDとHD) タイムコードについて 走査線について
【後期】 5～8回目	モニター(ディスプレイ)について 液晶・有機EL等 液晶の表面処理(グレア・ノングレア) 映像の入出力端子
【後期】 9～12回目	PCの入出力端子 USBの電源供給方式
【後期】 13～16回目	HDDのフォーマット形式 音声の入出力端子
【後期】 17～20回目	PCオーディオについて(ハイレゾ・圧縮音源の種類・ネットワークオーディオ等) インターネット放送・配信について
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	1年次に学んだレコーディングを活かし、ポストプロダクションについて学んで行きます。映像制作・映像編集の作業工程など見識を広げ就職活動に役立てましょう。
使用教科書	オリジナルテキストを随時配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	PC応用	授業形態 / 必・選	講義	必修	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	レコーディングコース、PA&レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経歴:31年 大学にてジャズギターを学んだ後、卒業後はCM作曲家として活動を始め、現在に至るまで作曲や、楽曲のプレゼン、楽曲とコンテンツ(画像・動画等)を合わせた納品等を行う。				
授業概要					
GarageBand、Illustrator、Photoshop、Animate CC等、クリエイティブなソフトを使用方法を学ぶ。					
到達目標					
GarageBand、Illustrator、Photoshop、Animate CC等のソフトの使用方法の習得。 デザイン能力向上。					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	GarageBandを使用してDTM用語の説明 GarageBandを使用して「おじいさんのい古時計」を使用して打ち込み GarageBandを使用して「Ellie My Love」「Jupiter」を使用して打ち込み
【前期】 6～10回目	Illustratorを使用してトレース作業 Excelを使用して納品書作成作業
【前期】 11～15回目	Excelを使用して1週間24時間スケジュール表作り GarageBandを使用して自由曲の打ち込み
【前期】 16～20回目	GarageBandを使用して映像に音楽をつける Illustratorを使用して間取り図の作成
【後期】 1～4回目	PowerPointの機能説明 PowerPointを使用して自分の好きなテーマで作品を作成
【後期】 5～8回目	PowerPointを使用して作品を発表 Photoshopを使用してペイント
【後期】 9～12回目	Photoshopを使用して複製 Photoshopを使用してコピー＆ペースト
【後期】 13～16回目	Photoshopを使用して変形 Photoshopを使用して作品の製作
【後期】 17～20回目	Animate CCの使い方 Animate CCを使用して作品の製作
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	1年次に学んだ社会人として必要とされるPCスキルを発展させ、音楽業界で必要とされるPCスキルを楽しく学んで行きましょう。
使用教科書	オリジナルテキストを随時配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	PA実習Ⅱ		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	86回(172単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	PA&レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経歴:21年 PA会社からキャリアをスタートさせた後、フリーランスのPAエンジニアとして活動。ライブハウス、コンサート、フェスなど、様々な規模の現場を経験し現在に至る。				
授業概要					
コンサート現場で使用されている機材を使って反復練習を行い、一つ一つ確実に技術を習得する。					
到達目標					
デジタル機材への理解を深め、現場における即戦力能力を身に付ける。					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	ホールの構造について 各器材、電源の入れ方について メインスピーカーの構造について
【前期】 5～8回目	チャンネルディバイダーについて パワーアンプのチャンネル割り当てについて スピーカーチェックの仕方について
【前期】 9～16回目	デジタルミキサーのレベルの取り方について デジタルミキサーの各チャンネルのチェックの仕方について デジタルミキサーの各チャンネルのEQについて
【前期】 17～24回目	デジタルミキサーのコンプレッサー・ノイズゲートについて デジタルミキサーのアウトプット設定について デジタルミキサーのグラフィックイコライザーについて
【前期】 25～38回目	3人編成を想定したアーティストのセッティング・チェック シンガーソングライターを招いたオペレート実習 モニター卓の役割について
【後期】 1～12回目	メイン卓とモニター卓の音声信号分岐について モニター卓を使ったセッティング方法について メイン卓とモニター卓を使用した際のチェックの仕方について
【後期】 13～24回目	モニタースピーカーチューニングについて 5人編成を想定したアーティストのセッティング・チェック
【後期】 25～34回目	5人編成のアーティストを招いたオペレート実習 ライブレコーディングについて
【後期】 35～48回目	メイン卓・モニター卓・ライブレコーディングのパターンで行われる際の音声信号分岐について ライブレコーディング実習
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	2年次ではデジタル機材を中心にPAを学んで行きます。1年次よりも音に注視した授業内容なので、実際に自分で音を出して、自分の耳を鍛えましょう。
使用教科書	オリジナルテキストを随時配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	レコーディング実習Ⅱ		授業形態 / 必・選	実習	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	86回(172単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	レコーディングコース、PA＆レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経歴：26年 レコーディングスタジオで7年間アシスタントとして多くのことを学び、その後レコーディングエンジニアだけではなく、5000人規模のライブ録音や50人規模のライブPAなど音を操る場で幅広く活動。				
授業概要					
実際にアーティストのレコーディング～MIX～マスタリングやアフレコ収録など幅広く学ぶ。					
到達目標					
業界水準レベルの技術の習得					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	スタジオのシステム、機材の名称の確認。 スタジオの用途、操作方法の確認 ミニミキサーによる信号の流れ
【前期】 5～8回目	AUX、グループ、ダイレクトアウトの使い方の違い マイクセレクト・マイキングについて 実際にコンソール機材を操作しながらレコーディング作業
【前期】 9～16回目	ドラムのセッティングを学ぶ。 ギター・ベースのセッティングを学ぶ コンソールのEQ・コンプの使用方法について
【前期】 17～24回目	トークバックについて レコーディング準備プランニング レコーディングシュミレーション
【前期】 25～38回目	レコーディング準備プランニング レコーディングシュミレーション 各楽器ダビング方法
【後期】 1～12回目	ボーカルレコーディング レコーディングした曲を使って、Protoolsでのエディット、プラグインを学ぶ。 ミックスダウンの仕方・流れ
【後期】 13～24回目	ライブレコーディングのシステム 合同授業にてライブレコーディングのシュミレーション・録音 ナレーション録音
【後期】 25～34回目	効果音制作 BGM制作 アフレコ収録
【後期】 35～48回目	アフレコ編集 マスタリング事情
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	1年次の基礎を活かし、2年次では実践形式で授業を進行します。プランニング・セッティング・マイキング・Pro Toolsのオペレート・サウンドメイキング・ミックス等の作業を繰り返し行い技術を習得しましょう。
使用教科書	オリジナルテキストを随時配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	レコーディング実地演習Ⅱ		授業形態 / 必・選	演習	必修					
			年次	2年次						
授業時間	180分(1単位時間45分)	年間授業数	8回(32単位時間)	年間単位数	2単位					
科目設置学科コース	レコーディングコース、PA&レコーディングコース									
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当	☒	非該当 ☐					
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。									
授業概要										
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。										
到達目標										
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。 企画、立案、進行等、インプット・アウトプット能力の向上。										

授業計画・内容	
1回目	学校法人イーエスピー学園主催イベント
2回目	ポストプロダクション企業見学
3～4回目	学園祭準備①②
5～6回目	学園祭①②
7回目	学園祭片付け、原状回復
8回目	Inter BEE見学
評価方法	平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	この演習を通じて、現場における流れや、他社とのコミュニケーションの仕方等確りと学んでください。
使用教科書	当日の役割分担表、業務要項等を配布